

「石垣牛」を首都圏へ、販促協議会創設

2021年3月4日 17:53 日本経済新聞 電子版



牛は温暖な気候の下で育つ。（沖縄県石垣市）

石垣牛は温暖な気候の下で育つ。（沖縄県石垣市）

沖縄県石垣島の黒毛和牛「石垣牛」を首都圏などへ売り込もうと「石垣牛流通協議会」が4日、都内で発足した。食肉卸のニイチク（東京・江東）とJAおきなわ八重山地区畜産振興センター（沖縄県石垣市）が連携、食

肉卸やホテル、飲食店など 37 社が参加する。新型コロナウイルスの影響で観光客需要が減退。地産地消型を転換し、全国に販路を求める。

石垣牛は、石垣島や与那国島で繁殖・肥育した黒毛和牛。2000 年の九州・沖縄サミット（主要国首脳会議）の晩さん会ではメインディッシュとして振る舞われた。現在、年間約 850 頭を出荷している。

主に島内の飲食店で提供してきたが、コロナ前はインバウンド（訪日客）など観光客需要で高騰、コロナ発生後は価格が急落するなど、地産地消だけでは生産や価格が安定しにくかった。

石垣市の中山義隆市長は「協議会の創設がより一層の評価につながる」と語った。会長を務めるニイチクの植村光一郎取締役は「将来的な輸出も含めて石垣牛を育てる」と意気込む。